

2014年10月26日 音楽科コンサート（会場：宮城学院女子大学講堂）

（プログラム）ごあいさつ

学長 平川新

人類が最初に得た芸術とは、歌であり、打楽でした。声に音色をつけ、木や石をリズムカルにたたくところから、音楽は始まりました。その後は、民族や地域によって固有の特色をもつようになりましたが、どの民族であれ、子守歌から鎮魂歌にいたるまで、人々の一生から音楽を切り離すことはできません。西洋音楽は、その到達点のひとつです。

宮城学院の音楽教育は、1886年（明治19）開学の宮城女学校時代からオルガン教育として始まり、1916年（大正5）には音楽専攻科が設置され、西洋音楽教育が本格的に導入されました。戦後の1949年には新制大学として宮城学院女子大学が開学しましたが、そのときに音楽科も設置されました。このように宮城学院は、戦前からの音楽教育の伝統を継承しつつ、東北・北海道地区では唯一の音楽科として、多くの音楽家たちを育て、輩出してきたところ です。

芸術は感性とわざが融合し、その粋を極めたところに、美しさの極地があります。音楽科の学生たちは、感性を研ぎ澄まし、わざを極めるべく、厳しい指導のもと、日々、研鑽を積んできました。本日はその修練の成果を、みなさまにご披露させていただきます。宮城学院女子大学の音楽科に、今後ともご支援のほど、よろしくご お願い申し上げます。